令和８年度　第３回　文京区立中学校部活動地域展開等に関する検討会議　記録の概要

日時：令和８年 10 月９日(金)18 時 30 分から 19 時 50 分
場所：文京シビックセンター20 階　教育委員会室

○　令和９年度部活動地域展開について（報告）

【事務局からの説明】

・　令和９年度の部活動地域展開については、７月９日（木）に開催された第２回検討会議において、９月よりサッカーとバドミントンの休日の部活動を地域展開することとし、会場校については、サッカーは、現在部活動がある第三中と音羽中の２校を、バドミントンは、現在部活動がある第一中、第三中、第六中、第九中、第十中、文林中、本郷台中の７校を選定した。
・　その後、９月３日（木）の教育委員会定例会や９月 30 日（水）の区議会文教委員会で報告を行った。
・　今後、この内容について、説明動画（資料１）とチラシ（資料２）を活用し、区立小中学校の教職員のほか、区立小学校５年生から区立中学校２年生の児童・生徒とその保護者に周知する。
・　併せて、小学校ＰＴＡ連合会及び中学校ＰＴＡ連合会にも周知する。
・　また、サッカーとバドミントンの休日の地域クラブ運営委託事業者の選定に向けた準備を進める。

【主な意見等】

・　令和９年度の部活動地域展開の周知について、小学校の周知対象学年を教えてほしい。
→　５、６年生を考えている。
・　バドミントンの会場校は、提示されている７校で確定との理解で良いか。
→　その予定だが、予算の兼ね合いもあるため、確定とまでは言えない。
・　休日の部活動が地域展開となるが、長期休暇中の扱いについてはどう考えるのか。
→　長期休暇中でも、休日は土・日・祝日を基本として考える。
・　中体連の大会には、学校部活動で参加する点は、誤解がないように伝える必要がある。
→　中体連の大会は、「地域クラブ」としては参加せず、「学校部活動」単位で参加することとする。ただし、バドミントンなどの個人種目は、「在籍中学校」の選手として中体連に登録すれば参加可能である。この点は、今後の中体連の方針を踏まえつつ、丁寧な説明が必要なので、今後、参加生徒には個別に周知したい。

○　地域クラブへの移動手段について

【事務局からの説明】

・　地域クラブ会場校への生徒の移動手段はいくつか選択肢がある。例えば、自転車、徒歩、電車などの公共交通機関があるが、生徒の安全性と利便性をどう考えたらよいか、委員の意見を聞きたい。

【主な意見等】

・　本区は、自転車通学を認めていない。

・　従前から、大会参加を含めて、部活動参加に生徒の自転車利用を認めていない。
・　公共交通機関のあるルートは移動しやすいが、根津から茗荷谷方面は移動しづらい。
・　都心で公共交通機関が発達していること、時間的に余裕をもって移動してもらうこと、幹線道路の交通量が多いこと、通学や部活動の移動ルールとの整合から、多少不便はあるかもしれないが、公共交通機関の利用もしくは徒歩でいいのではないか。
・　一般のクラブチームの参加には、自転車の制限はしていない。よって、あくまでも学校部活動に準じた活動という点、中体連の試合も学校部活動で参加する点、区が委託する事業という点から従前どおり公共交通機関の利用もしくは徒歩で参加することで理解を求めることとしたい。

【本会議としての合意事項】
・　「地域クラブ活動」には、公共交通機関の利用もしくは徒歩で参加することを原則とする。

○　「東京都における中学校の部活動改革に関する推進計画（令和８年８月改訂版)」について（報告）
【事務局からの説明】
・　東京都は、本年３月に「東京都における中学校の部活動改革に関する推進計画」を策定し、８月に改訂した。
・　東京都は、令和８年度から 13 年度の改革実行期間の取組みとして、資料４（改訂版）12 ページに記載のとおり、「東京モデル」として、A）部活動地域展開、B）部活動地域連携の拠点化、C）部活動地域連携の外部人材の活用の３つを組み合わせて、各地区の実情に合わせて持続可能な環境を構築するとしている。詳細は、資料４（改訂版）13～16 ページに記載のとおりである。

【主な意見等】
・　本区が、「文京区立中学校部活動地域展開実施計画 2026」を策定した本年３月に、都が「地域展開」だけでなく「地域連携」も含めて「東京モデル」の推進を打ち出したことから、本区としては、都の方針も尊重しつつ、進める必要があると考えている。
・　国から部活動地域展開推進の方針が提示され、全国足並みを揃えて推進しようとしていた中、東京都の場合は、人口集中から生徒数も一定数あり、従前の部活動が推進できている実態もある。事前アンケート結果を踏まえ、国の方針を進めることはハードルが高いという意見があり、「東京モデル」という形となった経緯がある。
・　東京都は、地域の実情も踏まえて、従前から部活動指導員を配置している実情もあり、その部活動指導員の活用を止めて、「地域展開」にシフトするというのも難しいという背景もある。
・　東京都の「地域展開」施策としては、「多様な地域クラブプログラム（Youth Activities in Tokyo ：通称 YAT（ヤット))」が、目玉との理解である。
・　教員の働き方改革も重要だが、生徒が運動できる環境を整備することが最優先である。

○　令和 10 年度以降を見据えた方針等について
【事務局からの説明】
・　今後のスケジュールについて、本区の「文京区立中学校部活動地域展開実施計画 2026」では令和９年度に一部の運動部活動を、令和 10 年度には全部活動を「地域展開」する予定としている。

・　令和９年度に開始する地域クラブ活動については、令和９年４月から８月までに生徒や保護者への説明などの準備を行い、９月からの開始を目指す。翌令和 10 年度の実施のためには、予算要求の関係で令和９年８月までには内容を固める必要がある。
・　また、他区の部活動改革の取組はそれぞれ異なっており、検証を重ね実施内容の見直しを図っている区もある。
・　今後の本区の取組方針について、委員から意見を伺いたい。

【主な意見等】
・　本区の計画では、令和９年９月から一部部活動を「地域展開」する予定であるが、その評価・検証を充分に行う前に、全ての運動部活動の休日の活動を「地域展開」する計画を実行するのは、拙速な印象がある。
・　予算の関係とは言え、一部の部活動を「地域展開」する前の令和９年８月までに令和 10 年度の方針を固めるのは、難しいのではないか。
・　「地域展開」した最初は、生徒のモチベーションが高いが、時間経過とともに意欲が継続しない場合も想定されるので、来年度の地域クラブ活動の評価・検証をしっかり行うことが肝要だと考える。
・　部活動の地域展開について、団体競技・個人競技によっても見解が異なると思われるので、競技種目毎、部活動の現場にヒアリングするなど準備が必要ではないか。
・　現場や生徒の状況を最優先にすべきであり、計画実行を急ぐ必要はないと考える。
・　中体連の大会には、「学校部活動」で出場することを原則とした場合、大会前の休日の「地域クラブ活動」との兼ね合いはどのようになるのか。
　→　現在の業務委託構想では、大会４週間前から、休日も「学校部活動」ができる仕様を考えている。
・　中体連の大会前に、顧問の意向で強制的に「学校部活動」に参加させることになることを懸念する。
・　一方で、平日の「学校部活動」の顧問が、指導意欲をそぐような形も避けたいと考える。
・　現行の中体連の大会参加ルールでは、同一生徒は１競技しか選手登録ができない。
・　例えば、バドミントン部のない学校の生徒で休日の「地域クラブ」に参加している生徒が、大会前の休日に「地域クラブ活動」ができなくなってしまうことも想定される。他校から参加する生徒が不利益を被らないよう、顧問と事業者で連携を図ることが大切である。
　→　学校との連携窓口役として、委託事業者に統括責任者を設置する予定である。

○　今後の予定
・　次回開催日程の確認

以上